

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成17年(2005)

平成17年 新春号(71号)
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp>

主な目次

宮司年頭所感	2頁
940年記念事業奉賛者芳名碑建立 ...	3頁
杜の話題	5頁
古神札焼納祭(どんど焼)	9頁



平成十七年乙酉歳の新春に当たり

謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と

氏子・崇敬者の皆様のご清福を熱禱申し上げます

新嘗祭の頃はまだ色濃い神門の夫婦銀杏も師走の朔旦祭には、素晴らしい黄金色に色付き青空に美しく映えていました。

また、初詣に見頃の冬桜（大宮桜）も咲き初め、いまだに落ちない黄葉とのコントラストが殊外美しく、秋と春が同居している様でありました。

一昨年、御鎮座九四〇年の幕開けを寿ぎ、初めて神前に奉納された神能「翁」が今年も元旦の初太鼓に続き、朗々と奉奏されて乙酉歳の新春が明けます。

お陰様で昨年もご神恩を戴き乍ら、ご敬神の念の篤い氏子・崇敬者の皆様のご理解とご協力にささえられ、年間の諸祭儀をはじめ諸行事を滞りなく順調に進捗させて頂きました事を誠に有難く感謝致しております。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて昨年は内憂外患悲喜交々、危機感ばかりが先行していききました。依然として治まらないイラクを始め各地の国際紛争やテロ事件の続出、国内も企業ぐるみの不祥事や、目を被いたくなる様な人命軽視の殺人事件が相次ぎ起こり、加えて天変地異とも言うべき、火山の噴火や、多発する台風の襲来、地震の災害がありました。特に新潟中越地方の地震は、いまだ余震が続いており、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。



ともにも一日も早い復興をお祈りするばかりでございます。罹災の皆様には、御に申訳けない事

朝日子を神のみかげと拝み奉る

宮司 鎌田 紀彦

ではありますが、今年ほど、目に見えぬ聖なる偉大なるもの（神々）の存在を感じさせて頂き、その怒りの現象として天変地異に表現して警鐘を鳴らし示唆を与えて下さっている様に感じられてなりません。

神々の在りますこの豊かな大地に感謝することを忘れ、私共の利便と快適さを追求し享受している内に、何時の間にか自然を破壊し、今や地球

環境が危機状況にあります。その上経済や科学文明の発達とともに、道義意識も退廃して心の有様が軽んじられ、私共のいのちの尊厳についても問い直される時が来ています。

先日のある新聞に、自然体験の調査で、「生まれながら一度も日の出、日の入りを見たことがない」と答えた小中学生が過半数にのぼると報じていました。三年前には二三％の子供達が朝日や夕日を見なくなつた事を聞いていましたのでIT時代が進むに従いこの様な傾向が更に進むのでしょうか。

これでは日の出の太陽を拝み、満月を愛でいた日本人のこまやかな心根も失われてしまいました。ましてや月の満ち欠けに、虫たちや草木などの動きに見られる自然のリズム感覚も亡くなつてしまいます。

又自然体験の多い子供は、生活体験も豊かで「家や学校が楽しい」と答える割合も高く、多様な経験と生活の満足度に関連性が見られるとの事。そうして日常生活の中で自然現象に目を配る

ことが如何に大切であり、生活体験についても同様に親が子に手伝いをさせたり、近所付き合いをさせたりして、日常の中で経験出来る様に配慮すべきと調査をされた教授が述べておられますが、示唆に富んだ指摘であります。

家庭の崩壊を防ぐ為にも、社会を構成する最小単位の家庭の教育が如何に大切であるかであります。

家を育て治めることは、先づ家庭でのお祀り（まつり）をしっかりと行うことです。毎日神棚（伊勢神宮や氏神様のご神札を祀る）や仏壇に手を合せ、目に見えぬご存在に「お陰様」と感謝する心を培い実践することであると思っております。

大宮八幡宮のご神前で奉奏の「豊栄の舞」の歌に
「あけの雲わけ ヲウツラト
豊栄昇る 朝日子を
神のみかげと拝めば
その日その日の尊しや」と詠われております。

時には、初日の出や朝日を仰ぎ見て拝み、自然に対する畏敬と感謝の念をもつことが大切なのです。朝夕に、祈りと感謝の家庭のまつりを通して、神々に生かされ守られていることが実感出来ること、毎日が家族俱々和やかに明るく楽しい健全な家庭生活が営まれる活力になるものと思えます。

又この様な家庭に、神々の祝福とご加護があるものと確信しております。

今年も、ご神威輝く新春のご社頭にお詣りを頂き、幸せ多き年となりませうお祈り致します。年頭の挨拶と致します。



御鎮座九四〇年奉賛芳名碑建立

大宮八幡宮奉賛会を平成十四年六月一日に結成し、爾来三年に亘り勸募活動を推進し、記念事業も完遂し、去る六月十五日に記念事業の竣功奉告祭と祝賀式が盛大裡に開催されました。この記念事業を後世に伝える為の記念碑の建立を計画しておりましたが、十二月十五日に見事竣工いたしました。



大宮八幡宮御鎮座九四〇年奉賛者芳名(六)

平成十六年八月一日

平成十六年十二月一日

- 一、金百万円也
- 奉賛者芳名彫刻碑一手建立一基
- 石定 森田石材(株)
- 一、金参万円也
- 大熊信司
- 一、金貳万円也
- 鎌田民枝(壹万円追加)

賑々しく厳かに大宮八幡祭り

大宮八幡宮の秋の大祭・大宮八幡祭りが九月十二日から二十日に行われ、十五日には例大祭、十九日には奉祝当日祭、神輿合同宮入りなどが斎行されました。大宮八幡祭りはこれまで九月十四、十五日に行われてきましたが、敬老の日の変更で、例大祭は従来通り十五日に斎行、神輿合同宮入りや奉祝の神賑行事は今年より敬老の前日の土・日曜(十六年は十八、十九日)の実施となりました。十五日は午前十時より氏子崇敬者等一六〇人が参列して例大祭。献幣使として参向の平岩昌利東京都神社庁長(代々木八幡宮宮司)が神社本庁よりの幣帛を奉りました。また十八日は宵宮祭のほか、境内で立正佼成会杉並教会の杉並太鼓の奉納などが。翌日十九日は午前十時より奉祝当日祭を斎行。また佼成雅楽会による舞楽や小笠原流三三九手挟式などが奉納されました。夕刻六時よりの第十九回神輿合同宮入りは氏子四地区より七基の神輿が宮入り。また一



菊被綿飾り

二〇軒もの露店が出て両日とも終夜まで多くの参詣者で賑わいました。



境内に初秋の訪れを告げる平安の宮中行事「菊被綿(きくのきせわた)」が去る九月九日より二十日の間、当宮で行なわれ、大宮八幡祭りの参拝者の目を楽しませました。菊被綿は九月九日重陽の節句の行事として平安時代以降、宮中を中心に広く行われてきたもの。古代中国では菊は仙境に咲く花で破邪延寿の効能有りと信じられました。菊被綿は前日八日に菊の花を真綿で覆い、九日の朝露で湿った綿を顔にあて若さを保つという習わし。「白菊には黄色の綿を、黄色の菊には赤い綿を、赤い菊には白い綿を覆う」とされました。清涼殿ロビーで三色の綿帽子をのせた一五〇鉢の菊被綿は地下鉄の広報パンフ「東京メトロ」にも大きく紹介されました。



初宮詣芳名

(平成十六年七月十六日(十二月十五日))

お健やかな成長をお祈りいたします

井上響 大脇智裕 佐藤ひまわり 小池恋麻
丸矢ひなた 菊地由那斗 佐藤七美
板原海空 市塚さくら 石井ゆうは
大辻くるみ 込山花緒 森山圭悟
小松原真子 安田悠真 岡芳樹 川本莉恩
川本紫恩 高倉太陽 高木大輔 橋本裕貴
石上空太郎 小倉諒太 三原天希 中村優斗
山田菜穂 黒田淳史 伊藤翔威 鈴木宙音
川島碧乙 小林伸光 花岡彩乃 増田智幸
廣瀬友希 千場玲央奈 正富帆夏 種田華礼
中島綾香 濱田智徳 大竹将湖 澤田琉之介
黒瀧めい 鈴木佑利亜 金子怜央 瀧田匠望
大久保宙 松村瑞紀 鈴木啓太 木佐碧望
仁島清嘉 駒井しょう 南綾乃 井田有砂
富田星河 馬場健吾 植野蓮斗 櫻井琴
宇田利菜 茅野剛士 藤原美結 古田龍平
前山覚蔵 天寺優人 上田ひじり 武田梢
江森陸人 佐々木美空 貞廣航輔 鈴木颯斗
青木凌太 相馬涼華 岩根実里 鈴木侑那
島田愛理 白石優空 永吉美月 小柳美海
中原舜哉 瀧白蓮 野澤亮介 岡本天
陶山夏希 橋本健吾 田辺明日香 山本花奈
田中孔明 本堂希空 永井美羽 菅原凜乃輔
大坪香子 小林正樹 永嶋洗騎 温水日奈子
新明楽久 有園勇吾 山田樹 塩澤延有
安藤夏音 伊藤涼 駒形一樹 藤本陽菜
和田匠平 米谷里菜 前田真希 小嶋碧波
黒羽海咲 山崎志郎 中村悠太
武内優里香 海野優羽 柴田夏希
徳永想太郎 近田華乃音 鈴木湧太
野澤将吾 酒井康聖 水上隼人 金丸七菜
長谷川蓮 金子芽生 小谷瑛良 亀井亮太
立川景一郎 酒井瑚子 横田翼 永吉英二
柴村彪 渋谷ひろ 井内大凱 三浦陽
友利美月 鈴木章史 木村彩乃 田中千聖

高巢菜々葉 石井桃奈 森翔 川澄千尋
内山晴貴 田村真優 高崎涼花 土屋壮
濱澤星流 葉山耀 豊泉尚大 蔵品帆隆
濱島香伶 岩崎凜空 安藤慧 山崎ありさ
堀真理子 太田里緒 館島利和 青柳利央奈
椎橋晴久 田代大和 中村理乃 松永航弥
東城利貴 清田波琉 高松日向子
生田目央翔 小林琉也 石井愛純 小岸龍正
市江祐聖 富澤大成 武田夏夏 小林大和
石橋穂乃花 小池まどか 林夏希 本瀬結奈
大橋恭二郎 杉江結衣 寺本彩恵 米加田昂
蕪木涼太郎 河瀬匡貴 小林祐太 米加田昂
田中翔太郎 金成美緒 松田泉之凜
佐川智輝 高橋哲彦 仲藍花 大井颯人
大島彩菜 吉森ひなた 山崎ひかり 瀧一柳
山田麟太郎 野崎耀介 浦彩陽 上町一平
早見虎丸 佐々木夏見 松永遼 橋和新太
白井祥太 渡邊翔太 櫻木翼 石田千夏
松永遥夏 仲井一馬 櫻木翼 石田千夏
佐藤航利 萬野良純 時森虎太郎 小野充寿
横川紗衣 小川陽平 古川凜歩 溝口千星
七字ののの 中根悠樹 飼沼準 森里花子
鹿木修斗 山田望叶 竹田江奈 大槻一貴
鹿野哲裕 鈴木琢 田口彩夏 中島花梨
高山昌輝 森松舞夏 竹田健剛 佐藤祥子
小川真由 鷗野彩英 土谷龍之翼 末藤龍成
森本智子 伊藤優吾 望月菜々美 新妻昌樹
新妻直樹 榊山美初 景山大生 赤井元太郎
平間なつ 阿部凜生 北村麻菜美 吉川兼斗
望月彩由 馬場真律 小川真依 渡辺柊
渡辺真奈 高橋楓 飯塚輝 今井麻乃
松岡潮音 船木千紘 吉田奈央 本宮彩夏
横江結衣 林安太 小作将吾 小山愛佳
小野寺菜瑚 安田百福 高橋康太郎
馬場知世 大倉陽斗 荒川真晴 宮島紫
三好凜 渡邊光 西山瑞基 西山葵衣
本橋忠史 小池健太郎 川上権一郎
原田愛梨 古橋昌征 染谷俊介 吉田弥輝
原田華 蛭田汐音 穂田ゆきお 吉田菜花
堀翼 堀翠 紙田歩実 服部正太郎
坂本慶太 宮本和佳 信澤啓太 秦千尋
高柳芽衣 町田龍之介 新宅晔登 向畑祥子
平澤蘭 平澤蓮 柳原綾佳 中静沙那

小野由夏莉 斉藤梨花 木下夏野 皆川愛理
梅原瑞希 永島朋 秋間菜緒 岩田浩太郎
渡辺梨央 大鐘日菜 伊藤珠良 中村萌
巢鴨華 田中美鈴 深井美沙希 鈴木風士
村井千裕 伊藤慎一郎 丸山睦未 松田莉緒
山本陽香 深井要 樋口春希 望月一希
大島麻由香 北條未田 吉原玲雄 渋谷奈央
佐々木美乃 木下小都乃 金子テオ淳乃進
鈴木結実香 丸田万利奈 遠田江里花
森佳乃 大川麟太郎 須藤菜月 貝吹麻琴月
浦井萌香 高橋未留 平地哲也 西川雅都
中西彩華 ラマテイ愛凜 秋田海渡
北野海風 中島陽 三尾太樹 宮島夏生
濱田秀哉 中村茉佳奈 山田彩絵 青木信吾
佐藤花恋 奥田七斗 杉田蓮 安達和奏
押山りおな 和田彩 勝俣直輝 松本七星
井上綱捺 守田涼 木澤照人 高橋笑
原井大 前川あゆみ 矢崎晴香
阿久津美羽 桑原結子 鈴木りほ
国木田一収 阿部裕允 大森 穂 石川実彩
石川航輝 佐久間心之助 大野明夏
山部美結 高野凌生 成瀬理貴 村山太一
田中瑛伝り力ス 築山知太 村主賢一朗
藤原陽人 渋谷弥優 牧田壮史 村田啓一
横井真結 矢可部優南 大嶋毛丸
勝部有里子 長友雄太 菊地拓海 中島明
瀬川楓香 松田結衣 水田智希 兵藤なつ
飯岡鈴子 小川実結妃 堀真理菜 宮川世風
氷室文之介 梶谷栄太 内藤雅貴 福田夕夏
関口璃胡 斉尾鈴香 間壁涼陽 内田菜奈
植松美結 橋口七海 福島初音 太田瑠星
安川和季 安江捷 大野蒼香 石原昌樹
アイウインジヨイ富美花 宮本泰介
松尾志帆 齊藤陽香 廣建進 田中凜
鈴木陽賀 星野志成 曾良健太郎 宮本夢叶
目黒乃絵 益々マイク 中崎智弥 山中璃胡
村田将輝 長尾虎成 萩原幸太郎 佐治寧音
中上彩夏 若月悠 田辺乃彩 荒井あんな
志鶴阿紋 田畑果南 倉富 龍弥 鈴木一花
圓藤口い一成 大金山樹 山形亮
田中梨紗穂 田中泰造 塚松心 長嶋彩華
古寿田祐輝 真鍋天花 山崎利里 吉澤実穂

宮上 Soge 井上凜音 新田彩乃 高井麻衣
松尾樹 松村明佳 阿多葉奈子 阿多陽奈子
南雲流星 廣澤光 中村知世 根岸くるり
烟慎之輔 坂田大和 氏橋利 古根利乃
小船佳乃子 横山琉汰 川島すずか
三田雄介 仁科大空 中林大将 石川和典
前田菜花 山田廉 奥村ちあき 植杉真帆
河田美里弥 小沢麻衣 平林文樹 二村瑛
鎮西汰地 朝井柊 蔵田なつみ 稲端亮祐
蓮尾莉奈 高橋陸 田原理仁 生地慶多
渡部なつめ 清水夏菜子 山口浩輝
小澤拓也 吉田彩乃 菅原孝信 大久保来依
北見陽花 戸田菜々美 奥山絵美理
池田尚広 森屋慧士郎 川上夏実 根岸圭吾
小池海翔 近藤楓真 奥ノ矢桃子 山本健司
鈴木絹子 佐藤宏亮 黒川日向子 大國柚希
八神岳 長谷川聖 清水真穂 原田悠真
岩村優大 金澤亜矢世 許田千聖
齋藤真悠子 杉山小咲香 高田夏織
高橋畠弘 伊原頌 秦三幸 中原茉優
菅又心人 鈴木啓 品川楓虎 安齋瑠桜
高橋二虹 角脇光季 似内智哉 惠楓徒
藤生翔全 高尾宗佑 掛林美結 難波陽太郎
山本彩音 宮下友里 後藤桂 林悠奈
山陽彩 河野蓮弥 奥尾友元 伊藤大
三浦健太郎 川上未来 野島葉月 小川真結
田口遥平 廣瀬創子 岡田陽菜 今井快
春山加恋 野中景都 鈴木啓斗 上原颯
松木大和 今野智貴 横山翔太 川井颯
渡部愛加 浪岡獅馬 北原大河 瀧井拓海
浅野実涼 龜山怜平 大内崇寛 竹市嘉人
高梨優誠 鈴木弘基 徳本涼香 村松璃音
野崎優栞 山本遙香 虎戸光希 村上暢
寺久保百那 齋藤優羽 田坂晃大 伊藤達彦
飯田千凜 橋本涼香 後藤陽葉 金子峻大
野澤一華 若崎叶乃音 佐藤雅武人
鈴木隆太 山崎天馬 大澤風音 鏡諒季
鈴形麗俊 中名生綾子 西崎真衣
川上耀 松田彰 古川菜々 黒岩真梧
高直直央 内藤十希 中島琴乃 佐藤智哉
得地結愛乃 石坂仁 山下颯太郎 木川和
田屋美咲 森下永理奈 谷浦花音 津村颯汰
岡本結衣 黒澤珠月 三津橋里菜

杜の話題

兼務各社例祭

九月は当宮の秋の大祭の月に当たりますが、兼務三社に於いても各々例祭が斎行されました。まず九月五日午前十一時より尾崎熊野神社の例祭が宮司以下祭員奉仕により氏子総代が参列し斎行されました。

ついで九月十二日午前十一時より成宗白山神社の例祭が同じく宮司以下祭員奉仕により斎行されました。この白山神社は宮神輿がありながら睦会がなく、例年神輿渡御に際し担ぎ手の不足に苦労しておりましたが、本年五月に地元の人々が結集し遂に睦会が発足致しましたので、前日の神輿神霊入れの後、新睦会の面々により氏子町内の神輿巡幸が執り行なわれまし

た。堀ノ内熊野神社の例祭は、本社と同じく九月十五日です。午前中の本社の例大祭が終わった後、宮司以



下の奉仕により斎行されました。神輿の町内巡幸は敬老の日の前の日曜日にあたる九月十九日に行われました。

仲秋祭「十五夜の神遊び」

旧暦八月十五日は十五夜、旧暦九月十三日の十三夜の豆名月に対し、芋名月と呼ばれ、片方だけ見るとを片月見とされて来ました。当宮では今年の旧暦八月十五日に当たる九月二十八日夕、「十五夜の神遊び」を斎行、鳴虫がすだき竹灯籠の炎がゆらゆらと揺れる神域で、仲秋祭や雅楽奉奏、コンサートなどが催されました。

神遊びとは神慰め、神祭りのこと。四回目を迎えた今年は釣瓶落としに陽が沈んだなか、孟宗竹に水を張り浮き蠟燭を浮かべた境内の八百基の竹灯籠に宮司以下神職と参列者が次々に点灯。引き続き午後六時より社殿にて仲秋祭が奉仕されたのち、雅楽奉奏が行われ、管弦の「五常楽」「陪臚」と神楽「浦安舞」が奉奏されました。ついで午後七時よりは



「月の音コンサート」が。これは同コンサート実行委員会主催、杉並区文化交流協会の後援で奉納されたもの。尺八という伝統楽器の概念を打ち破る音世界を表現する気鋭の演奏家・き乃はち都内のライブハウスでの弾き語りから、一昨年、「ひなのつた」がNHKみんなのうたにオンエアされた柴草玲。お二人の月と風を感じるコンサートは約八百人の陪観の参拝者を魅了しました。このあと清涼殿ではこの日に因んだ特選の新料理で「十五夜御膳の集い」が和やかな内に催されました。

杉並新聞

「トップインタビュー」

去る九月二十日付杉並新聞「トップインタビュー」に当宮鎌田宮司のインタビューが掲載されました。

御鎮座九四〇年の歴史と伝統を持ち、古くから「多摩の大宮」と称され武蔵三大宮の一つであり、近年は「東京のへそ」として知られる当宮宮司として、

春・秋の大祭や仲秋祭「十五夜の神遊び」等様々な地域と密着した祭事を通じ、鎮守の杜のお祭りに小さいころから参加する事の大切さを語りました。また、大宮幼稚園園長としても幼児教育の重要性を述べました。



コミュニティすくーの参拝

「みたい・ききたい・まなびたい・2004」のスローガンで、あさがやコミュニティすくーの会員四十名が去る十月六日に当宮をお参りいたしました。当日は、午前中に杉並区役所を出発し善福寺公園和田堀公園を散策しながら昼頃に着し、昇殿参拝と鎌田宮司の講話の後、清涼殿にて昼食をとり杉並郷土館へと出発しました。

またこの後、十月十二日には、健康づくりフェア2004 in こつえんじウオーキングの皆様二十名が、十月十九日には杉並区健康づくり荻窪南地区会の皆様二十名が、十一月二十七日におおきぼコミュニティスクール三十七名が相次いで参拝されました。

東京都八幡会研修旅行

東京都八幡会（会長・平岩昌利代々木八幡宮宮司）の研修旅行「八幡信仰を追って」が十月十二日より十四日の間、若狭方面で実施され、当宮より宮司他が参加しました。

都八幡会は八幡大神のご神徳の宣揚を目指し、調査研究活動を行なっている団体で当宮が事務局を受け持っています。

この度の研修は但馬、丹後、若狭、越前路方面を訪問。第一日は但馬一宮の出石神社や粟祖神・田道間守命を祀る豊岡市の中嶋神社、ついで天照大神が大和笠縫色より御動座、伊勢の五十鈴の川上に鎮まる途次、鎮座された大江町の皇大神社（元伊勢内宮）、豊受大神社（元伊勢外宮）の各社を参拝。

翌日は天の橋立の丹後一宮籠神社（元伊勢大神宮）を参拝後、小浜市の若狭一宮若狭彦神社・若狭姫神社と同社の境内地で東大寺二月堂若狭井への水送り神事の「鵜の瀬」を訪れ、最終日は氣比大神と八幡大神をお祀りする越前一宮氣比神宮・越前平泉寺・白山神社を参拝しました。

杉並トーチラン

平成十七年二月にアジアでは

初めての、知的発達障害者のスポーツの祭典であるスベシャルオリピック冬季世界大会が長野市で開催されます。この世界大会をよ

り多くの人々に知っていただき、大会の成功に向けて、五〇〇万人トーチランが計画され、杉並区でも実行委員会が結成され、その皮切りとして去る十一月十三日に永福稲荷神社を出発し、当宮がゴールの杉並トーチランが実施されました。

当日は、七五三詣のピークを迎え着飾ったお祝いの子供達の中へ伴走の山田区長ほかのトーチランが無事ゴールしました。



菊花展に小菊の盆景も

第二十六回を迎えた「杉並大宮菊花展」

（杉並大宮菊の会主催、杉並区後援）が、境内で開催されました。当初十月二十二日より十一月二十三日までの一ヶ月間の



予定が、台風の影響で搬入が出来ず一週間遅れの開催となりました。その分会員各位が満を持しての出品となり、十一月八

日の審査日には、実力の伯仲した作品がそろい、宮司賞、区長賞等の選考に時間がかかっておりました。今年の出品作品は、盆養菊、盆栽菊、懸産等と例年の七五三の文字菊の他に境内や近隣の風景を模した小菊の「盆景」も新たに加わり、参拝者に好評を博しております。



ご神札奉戴式を厳修

新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々に御頒ちするご神札奉戴式が、本年は去る十一月五日に、鎌田宮司、高橋住雄責任役員、神札頒布責任者の森川カツノ、小松延江両氏が参列し、斎行されました。

御神前に於いて大宮大麻・大宮三宝荒神などの神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様に奉告後、宮司、参列者が玉串拝礼を行いました。新年には、各ご家庭や会社の

事務所の神棚に、新しいご神札をお祀りして清々しい一年に致しますよう。

旧別当宝仙寺を表敬参拝

当宮は一昨年ご鎮座九四〇年の佳年を迎えましたが、創建当初の別当寺宝仙寺を鎌田宮司が表敬訪問をしました。宝仙寺は当初阿佐谷



にあり当宮の別当でしたが、室町時代に中野に移り、当宮の別当寺として大宮寺が建てられ宝仙寺の末寺となりました。明治維新以来交流も薄れていましたが、今般ご鎮座九四〇年を迎え記念誌の編纂にあたり去る十一月八日に参拝し、富田道生住職と懇談致しました。

新嘗祭に宮中献穀が

秋の実りを感じ感謝する新嘗祭が十一月二十三日午前十時より役員総代氏子崇敬者らが参列する中、宮司以下祭員奉仕により厳かに斎行されました。

新嘗祭は五穀豊饒を祈る春の祈年祭に対し、新穀を大神様にお供えして秋の収穫を感謝する



前日まで降り続いた秋雨もあがり、穏やかな小春日和となったこの日、元横綱と美恵子夫人、お祖父ちゃんの子山

元横綱若乃花の花田勝さんの長女瑞希さんと三女茉央ミイナちゃんの七五三詣りが去る十一月二十日、当宮で執り行われま

花田勝さん一家 七五三詣

この他岩手県の篤農家からの新米や、幼稚園の稲田で園児等が育てた稲穂、ボーイスカウト、ガールスカウトからの和稲や野菜などもお供えされ、感謝の祈りが捧げられました。



祭り。今年の新嘗祭には方南地区の鈴木総代のご尽力により、毎年宮中に新穀を献上されている」

A東京中央農協より、特別に当宮へも精粟の献納があり、直会の席に於いて宮司より感謝状が贈呈されました。

親方、それにご長男と次女のご一家七人でご参拝。お祝いのお子さん達は健康祈願の祝詞を神妙な面持ちで聞いておられました。

石原前国務大臣ご一家 七五三詣

十二月五日未明の暴風雨が通り過ぎ、一転青空が広がる中、石原伸晃衆議院議員(前国土交通大臣)が長男伸武也くんの七五三詣の

為、家族四人揃って和服で参拝、宮司齋主により昇殿参拝が執り行なわれました。



杉並花笠祭に「大宮八幡音頭」

第十四回目を迎えた「杉並花笠祭り」(当宮と榊サミットの主催、後援山形県他)が、十二月十一日開催されました。

当日は、社殿に於いて「杉並花笠祭奉納告祭」を斎行の後、神門前広場のメインステージにて主催者・地元商店会・山形県関係者による御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が次々と

執り行なわれました。

午前十一時と午後一時の二回、西永福商店街から当宮までの東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部など多数の踊り手により花笠パレードが、賑やかに奉納されました。



またご社頭では、崇敬者の尾身善男氏が作詞され、花笠踊りと同じ節回しの「大宮八幡音頭」が披露されました。

大宮八幡音頭

作詞 尾身善男

唄 小山憲宏

大いに働き 一家を育て

老いては(チヨイチヨイ)

御神の 友となる

(ハア ヤッショ マカシヨ)

宮の静けさ 緑の深さ

神の(チヨイチヨイ)

恵みで 百寿まで

(ハア ヤッショ マカシヨ)

八は末広 氏子も神も

共に(チヨイチヨイ)

栄えて 世々末代

(ハア ヤッショ マカシヨ)

幡に八の字夫婦の仲よ

切つても(チヨイチヨイ)

切れない 守り神

(ハア ヤッショ マカシヨ)

編輯 関 芳之助

(花笠音頭のふしまわしで唄ってください)

大被式と除夜祭にお参りを

恒例の師走(年越し)の大被が、大晦日、十二月三十一日午後四時から、数百人の参列者を迎え、神門前広場に於いて厳肅に斎行されます。

大被は、六月の夏越(なごし)の大被と年二回行われますが、特に十二月は年越しの大被と呼ばれ、その年の心身の罪穢を洗い清め、新しい年を迎えようと祈る神事で、神職が大被詞を宣

読した後、参列者一同そろって切りぬさで身を洗い清め、列をなして「茅の輪」を三度くぐることにより更に被い清められます。

この後、引き続きご神前に参進して除夜祭が斎行されます。行く年を振り返り、新しく来る年が良き年でありますようお願いをします。どなたでもご自由に参列が出来ます。

平成17年 厄年表 (数え年)

男 性	前厄	本厄	後厄
	昭和57年生(24歳)	昭和56年生(25歳)	昭和55年生(26歳)
女 性	昭和40年生(41歳)	昭和39年生(42歳)	昭和38年生(43歳)
	昭和21年生(60歳)	昭和20年生(61歳)	昭和19年生(62歳)

男 性	前厄	本厄	後厄
	昭和63年生(18歳)	昭和62年生(19歳)	昭和61年生(20歳)
女 性	昭和49年生(32歳)	昭和48年生(33歳)	昭和47年生(34歳)
	昭和45年生(36歳)	昭和44年生(37歳)	昭和43年生(38歳)
	昭和21年生(60歳)	昭和20年生(61歳)	昭和19年生(62歳)

厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮において、厄除けのお払いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

大宮八幡宮の杜新能

第二回「大宮八幡宮の杜新能」(杉並で能楽を楽しむ会主催)が、来る平成十七年五月十四日に奉納公演される事に決まりました。演者は、毎年元旦午前零時に、神能「翁」を奉納されている能楽師野村四郎氏等観世流の方々によって、奉納されます。演目は、能「舟弁慶」と狂言・舞囃子の予定です。



十二月の第一土曜日を当園では餅つき大会とこの数年決めており、今年も父母の会の役員・幹事のお母様方とつき手でご参加下さったお父様方二十九名の方々に餅つきが始まりました。

一番臼は神様にお供えをする鏡餅です。園長先生と手返しのお父様と絶妙なコンビネーションで息を合わせつきあげていただきました。そしてすぐにお米屋さんで慣れた手つきで手早く形を整え、通園バスのおじさんがうちわであおいで、ふっくらとした形の良い大きな鏡餅の出来上がりです。子供達はこの出来上が

つたばかりの鏡餅の見学をしますが、まだふわふわしているお餅なので最初に先生方は子供達に「絶対に指でさわってはダメですよ」と話をしてから子供達を職員室に誘導して見学をしました。この後、つきたてのやわらかいお餅をあんこやきなこにまぶして子供達は沢山いただくことができ、ひとあし早いお正月気分を味わいました。そして十二月七日の大安の日に年長児の代表が神様に鏡餅をご奉納いたしました。

教頭 草村敏子



緑豊かな都心の杜。 正統派神前式

成人式

卒業式

衣装・美容着付・写真・初宮他会食承ります。

清涼殿

03(3312)7515

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成十六年八月一日)

十六年十一月三十日

松葉大輔・奈歩、山田純・信子、五味孝太・瑞穂、中村広行・貴子、前岡高樹・月枝、川上亮介・浩子、高橋知彰・みのり、松本豊・知恵、岡本由紀夫・良子、伊澤浩明・政美、平井隆司・優美、ジエームス・ナツシユ・織恵、吉田勝彦・真由美

古神矢古神札等
焼納祭(どんど焼き)に
ご協力をお願い

一年間御守護頂いた御札やお守は感謝の念を込めて、氏神様にお納め致しますよう。

当宮では、一月十五日に斎行いたしておりますが、近年、問題視されているダイオキシン等の環境保護対策を含め、今後とも伝統行事のお焚き上げ神事を存続させる為にも、昨十五年末よりお納め頂く際に、全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生恐れのあるもの(プラスチック製品等)は、その場でお持ち帰り頂いておりますので、予めご諒承の上お持ち込みになりませぬ様ご協力をお願い致します。

- 一、納所では感謝を込めてお納め願います。
- 一、納所は当宮の古神矢・古神札類及び正月飾り(しめ縄等植物性のもの)を、お預かり致します。
- 一、人形(ぬいぐるみを除く)類は別途に人形感謝祭を行つてお納め頂いておりますので、祈祷受付へお申し出下さい。

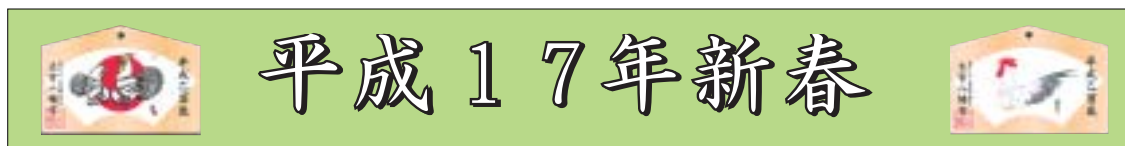


一、ご不審な点は社務所へお尋ね下さい。

- お預かり(お焚き上げ)できない品
 - お寺の仏像・経本・仏具類
 - 年賀状やカレンダー
 - プラスチックの正月飾り
 - 日記や写真など想い出の品
 - 当神社以外の干支の置物
 - 祝儀・不祝儀袋
 - 結納品
 - ダルマ(可燃不燃問わず)
 - 財布
 - 教科書やノート
 - みかん・餅など生もの
 - その他神社に関係のない品
- ご持参の包装紙・袋等はお持ち帰り願います

春の祭典と行事	神能「翁」	1月1日
新春厄除開運大祈祷	1月1日	1月1日
歳旦祭	1月1日	1月1日
大的式	1月2日	1月2日
元始祭	1月3日	1月3日
武蔵野陵遥拝	1月7日	1月7日
月次祭並古神札焼納奉告祭	1月15日	1月15日
古神札焼納祭(どんど焼)	1月15日	1月15日
初天神祭(大宮天満宮)	1月25日	1月25日
文化財防火デー消防訓練	1月26日	1月26日
節分祭	2月3日	2月3日
初午祭(大宮稻荷神社)	2月3日	2月3日
梅盆栽展	2月下旬	2月3日
紀元祭	2月11日	2月11日
ぼけ盆栽展	3月中旬	3月中旬
畝傍山東北陵遥拝・本宮遥拝	4月3日	4月3日
裏千家献茶式	5月7日又は8日	5月7日又は8日
大宮八幡宮の杜新能	5月14日	5月14日
朔日祭	毎月1日	毎月1日
月次祭	毎月15日	毎月15日
古民具骨董市	第4土・日	第4土・日

謹賀新年 平成十七年元旦	大宮八幡宮	
	代表役員	鎌田 紀彦
毎月、お朔日参りを 致しましょう。	責任役員	高橋 住雄
	代表役員	井出 辰夫
高橋 雄	高橋 住雄	和東地区
	高橋 住雄	和東地区
三枝 治太郎	三枝 治太郎	和東地区
	三枝 治太郎	和東地区
相川 真喜雄	相川 真喜雄	和東地区
	相川 真喜雄	和東地区
黒塚 浩一	黒塚 浩一	和東地区
	黒塚 浩一	和東地区
井出 辰夫	井出 辰夫	和東地区
	井出 辰夫	和東地区
三枝 治太郎	三枝 治太郎	和東地区
	三枝 治太郎	和東地区
根岸 辰夫	根岸 辰夫	和東地区
	根岸 辰夫	和東地区
今井 正彦	今井 正彦	和東地区
	今井 正彦	和東地区
毛塚 克正	毛塚 克正	和東地区
	毛塚 克正	和東地区
関本 治雄	関本 治雄	和東地区
	関本 治雄	和東地区
請井 治雄	請井 治雄	和東地区
	請井 治雄	和東地区
五本木 徳治	五本木 徳治	和東地区
	五本木 徳治	和東地区
大宮地区	大宮地区	和東地区
	大宮地区	和東地区
総代	総代	和東地区
	総代	和東地区
監査	監査	和東地区
	監査	和東地区
講長	講長	和東地区
	講長	和東地区
松島 浩一	松島 浩一	和東地区
	松島 浩一	和東地区
黒澤 四郎	黒澤 四郎	和東地区
	黒澤 四郎	和東地区
藤枝 宏友	藤枝 宏友	和東地区
	藤枝 宏友	和東地区
梅沼 清治	梅沼 清治	和東地区
	梅沼 清治	和東地区
高橋 住雄	高橋 住雄	和東地区
	高橋 住雄	和東地区
井出 辰夫	井出 辰夫	和東地区
	井出 辰夫	和東地区
高橋 住雄	高橋 住雄	和東地区
	高橋 住雄	和東地区
尾崎熊野神社	尾崎熊野神社	和東地区
	尾崎熊野神社	和東地区
安藤 雄次	安藤 雄次	和東地区
	安藤 雄次	和東地区



平成17年新春



元旦零時、宮司の打つ太鼓を合図に開門



神能「翁」の奉納



新春厄除開運大祈禱を斎行



元旦午前八時、歳旦祭斎行



浦安の舞の奉奏



立正佼成会庭野会長様もご参拝



山田杉並区長ご一家参拝



新春を祝う参拝者で賑わう社頭



2日、大的式墓目の儀（除魔神事）
（当宮授与の破魔矢の由来）



願いを込めて「みくじ」を結ぶ



2日、小笠原流大的式



15日、火鑽りによるご神火おこしと、古神札焼納祭（どんど焼）

大 宮 第71号
 平成17年新春号
 平成17年1月1日発行
大宮八幡宮社務所
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話(3311)0105 168-8570